

▶▶ オーラルヒストリー・アーカイブズの構築

歴史的な出来事を体験した人々や コミュニティの証言を聴き取り、次世代に継承する

▶ プロジェクトメンバー

○長廣 利崇（経済学部）
芦田 昌也（経済学部）
小関 彩子（教育学部）
東 悦子（観光学部）
山神 達也（教育学部）
吉村 旭輝（紀州経済史文化史研究所）

○はプロジェクト代表

▶ 共創相手

和歌山県古座川町西川地区
和歌山県中南米交流協会
フランク・淳子

プロジェクトの背景

地域社会には、関係者のあいだでのみ共有されてきた歴史や文化が多数存在する。人々にインタビューを行い、それを録音して収集される口述の資料（オーラルヒストリー）を保存・公開するアーカイブズの構築は、そうした歴史・文化を次世代へと継承することに貢献しうる。関係者にとっては、自身の経験や所属するコミュニティの歴史・文化が継承に値する価値を有することの発見につながりうる。

プロジェクトの目的

このプロジェクトの目的は、オーラルヒストリーを用いて紀伊半島の歴史・文化を発掘することにある。歴史的・社会的な出来事を体験した人々の証言を聴き取るオーラルヒストリーの手法は、歴史学のみならず、様々な学問領域で採用されてきた。体験者の生きられた経験を重視するこの方法は、文献資料には必ずしも記録されておらず、出来事に関係する人々のあいだでのみ共有されてきた歴史や文化を発掘するのに適している。さらには、収集した音声録音をテキストマイニングし、文理融合型の研究を進めることも研究目的のひとつとなる。

2023年度は、①災害からの復興過程を介して見る地域の姿に関する分析、②和歌山県の移民史、③文化財

関係者へのインタビュー調査を実施した。

プロジェクトの活動内容

①災害からの復興過程を介して見る地域の姿（山神・吉村）

2022～2023年に実施した和歌山県古座川町でのインタビュー調査（写真1）の成果などをもとに、災害の発生状況やそこからの復興過程について分析を進めた。古座川流域において、中・下流域では浸水被害が大きい一方、上流域では土砂崩れなどによるライフラインへの損害と集落孤立のリスクが大きいことが明らかになったほか、集落の変遷についての知見が蓄積されつつある。



写真1 浸水高を指す住人（高瀬地区、2022年3月）

②和歌山県の移民史を織りなす人々の記憶（東）

和歌山県中南米交流協会副会長の冨家力氏が幼少の頃、3人のきょうだいが太平洋戦争後に再開されたブラジル移民として、南マット・グロッソ州のドラードスに移住されている。同協会の会長や事務局長もまじえて、写真を見ながら当時の思い出をお聞きし、意見交換を行った。

移民の目的は経済的な点に焦点が置かれがちであるが、ブラジルへ移住することは、その国のために一生懸命働くことであり、それにより日伯関係もよくなるという考えなどを知り、当時の人々の志に触れることができた。

③移民のシンポジウム（小関）

2024年1月21日に「移民の歴史をめぐるシンポジウム 広島と和歌山から」を開催した。和歌山と同じく移民母県である広島のハワイ移民資料館館長を迎え、母県の視座から移民史を捉えた議論が交わされた。今回の会場は和歌山市立博物館であり、登壇者の所属も和歌山市民図書館、和歌山市立博物館、和歌山県立近代美術館と、地域の知を集積する拠点と大学との連携によって実現した交流の場となった。



写真2 移民のシンポジウム（2024年1月23日）

④文化財保存（長廣）

本研究所の事業のひとつである文化財の収集・保存・展示の一環として、「和歌浦街道松並木遺物『伐採根』の保存展示披露式」を開催した。「伐採根」は、古くから和歌浦街道にあったが、戦時下に伐採された。この度、藤本清二郎名誉教授により発見され、本研究所に寄贈された。

こうした文化財保存をさらに進展させるため、文化

財行政にも従事した小関洋治（元和歌山県教育長）氏にインタビューした。小関氏は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の登録時の教育長を務めていたため、その経緯や苦勞などを知ることができた。



写真3 披露式（2024年1月26日・松下会館）

プロジェクトの成果

地域の人々にインタビューし、出来事に関係する人々のあいだでのみ共有されてきた歴史や文化を発掘した。具体的には、災害の発生状況やそこからの復興過程についての分析を通して上流域と中・下流域の差異、移民調査を通して移民の経済外的な行動、文化財関係者へのインタビューを通して当事者のみ知る経緯と苦勞が明らかにされた。

さらには、インタビューのテキストマイニングも実施した。この成果は、芦田昌也・長廣利崇「テキストマイニングによる企業家の男女差」（『紀州経済史文化史研究所紀要』第44号、2023年）として刊行された。なお、本研究所のホームページにおいて公開されているオーラルヒストリー・アーカイブズには、2022年1月1日～2023年12月31日に215回の閲覧があった。

